

主な質疑応答

（ご理解いただきやすいよう表現を変更している箇所があります。）

Q: 足元の経営環境が厳しくなってきたとのご説明があったが、企業のIT投資への影響はすでに具体的に出てきているのか、あるいは、まだ先行きを懸念しているだけの段階なのか確認したい。

A: 特に回復傾向にあった製造業の先行きを懸念している。ただし、当社の主要顧客である大手製造業のお客様では、具体的に投資を先送りした主要案件はまだ出てきていない。

Q: 9月末のソフトウェア受注残高が192億円とかなり高水準だが（前年同期末比106億円増加）、売上高にはいつ計上される予定なのか、また、その採算性はどうか教えてほしい。

A: 9月末のソフトウェア受注残高192億円のうち、今期中に売上計上される分が58億円、来期以降に売上計上となるのが133億円である。この受注残の中には、採算性の良い案件も含まれている。

Q: 下期の営業利益見通し（前年同期比6億円減益）は非常にコンサバな数字に見えるが、増減要因を確認したい。

A: 上期は大幅な営業増益となったが、これは下期から前倒しで計上された案件を含んでいる。また、サポートサービスの減収減益トレンドがまだ続いていることや、下期は昨年度に削減した経費の戻りを予定していることに加え、足元の不透明感も強まっていることから、前年同期比6億円減益の見通しとしている。

Q: 上期の不採算の発生状況と下期の見通しを教えてほしい。

A: 上期時点でコスト超過が見込まれる複数案件全てについて引き当てた。下期は期初時点での想定額を据え置いた。成長に向けて新事業や新領域にチャレンジしていることから、リスクマネジメントの更なる強化を進めている。

Q: 上期のサービス売上総利益率が前年同期比で5.5pt低下していたが、下期の売上総利益率の考え方について確認したい。

A: サポートサービスは下期も減収見通しであることから利益率の低下を見込んでいるものの、システムサービスの利益率改善などにより、下期のサービス全体の利益率は前年同期比2.1ptの改善を見込んでいる。

（注）本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。